

令和2年度 第11回白石町協働による地域づくり検討委員会 議事録

- 開催日時：令和2年11月18日（水）19：00～20：00
- 開催場所：白石町役場3階 大会議室
- 出席委員：五十嵐委員長、森副委員長、門田委員、上野委員、定松委員、木原委員、石隈委員、藤木委員、島ノ江委員、福地委員、片渕委員、江口委員、丸田委員、内野委員、草野委員、林委員、山下委員
- 事務局：百武副町長、千布総務課長、木須総合戦略課長、中村生涯学習課長（渡部生涯学習課長補佐代理出席）、森白石公民館係長、伊東福富公民館係長、木須有明公民館係、山下長寿社会課長補佐、溝口高齢者係長、田口障がい福祉係長、香月重点プロジェクト係長、山口重点プロジェクト係主任、諸石重点プロジェクト係主事、辻白石創生推進係長、柴田白石創生推進係主任、陣内白石創生推進係主事

《 議 事 録 》

19時 開会

1. 開会

2. 委員長あいさつ

○委員長

皆さんどうもこんばんは。コロナ禍の中で、特に須古地区の協議会設立のための準備委員会、そしてこの前のワークショップもそうでしたけれども、須古地区の住民の多くの方々がこの問題に非常に大きな関心を寄せていただいております、いま精力的に須古地区で協議会設立に向けたさまざまな話し合いが行われているところでございます。コロナ禍の中で予定通りというわけにはいかない部分もあろうかと思っておりますけれども、非常に厳しい状況の中で大変頑張っておられるというふうに思っております。さて、この委員会ですけれども、今年度3月に、後ほど議題にありますけれども、提言書という形で取りまとめることが大きな課題になっております。そのためにも、須古地区での検討状況、それから新たに六角校区がモデル地区になりますので、そういった地域の実情、課題、成果、そういったものをこの委員会で共有しながら、なんとか提言書をまとめていきたいというふうに思っております。どうぞよろしくご審議のほどご協力をお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。それでは協議事項に入らせて頂きますが、ここからは委員長に会議の議長をお願いいたします。

3. 協議事項

(1) 第10回 検討委員会等の振り返り

○委員長

それでは議事に従って進めさせていただきます。まず協議事項(1)第10回検討委員会の振り返りでございます。事務局からご説明をお願い致します。

○事務局

私の方から前回の振り返りということで、資料につきましては資料1となります。議事録を準備いたしております。前回7月20日の議事録となります。これにつきましては、事務局の方で作成をいたしておりますのでご確認をいただきまして、修正等ございましたら事務局の方までご連絡をお願いいたします。なお、ホームページの方で掲載する際は、発言者のお名前を削除しまして、委員とのみ表記して掲載をいたしたいと思っております。簡単ではございますが事務局からは以上でございます。

○委員長

ありがとうございます。前回の委員会の議事録をご一読頂きまして、何かご意見ご質問等がございましたら、後ほど事務局の方にお寄せください。

(2) 令和元年度「町民協働によるまちづくり」モデル事業について～須古地区地域づくり協議会設立準備委員会～

○委員長

それでは、次に本日の協議事項の核心部分になりますけれども、令和元年度町民協働によるまちづくりモデル事業について、須古地区地域づくり協議会設立準備委員会の検討状況についてお諮りをしたいと思います。まずは事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局

はい、それでは説明をいたします。資料につきましては資料2、資料3、資料4となります。はじめに資料2につきましてご説明します。令和2年度以降の須古地区地域づくり協議会設立までのスケジュールでございます。コロナの感染拡大を受けまして4月、5月は委員会を開けなかったということで、スケジュールをこの表で行きますと、右側の方に変更いたしております。この右側の修正後のスケジュールに沿って進んでいる状況です。現在もコロナの感染拡大と隣り合わせの状況でございますので、今後の見込みが非常に立てづらいところではありますが、今のところ計画通りに進んでおります。右の一番下にありますとおり、令和3年度の5月の協議会設立及び活動開始を目標としております。

続きまして資料3をご覧ください。第1回須古地区の暮らしと未来をつくる会議、一番右上に令和2年10月号ということで、また中ほどには会議開催レポート1号ということで記載してあります。このパンフレット、チラシにつきましては、須古地区の方には全戸配布をいたしております。9月27日に行いましたワークショップの報告と11月15日に行いましたワークショップのお知らせを兼ねて発行しております。9月27日のワークショップにつきましては、須古の住民の方100人に参加をいただきまして、15のグループに分かれていただきまして話をさせて頂いております。めくっていただきますと、当日たくさんの意見が出されましたので、大きく3つに分類しております。左側「1. こんなことが起こってるの」、真ん中のところ「2. 困っていることもあるよ」、右側「3. こんな地区になったらいいな」ということで、大きく3つに意見を分類しております。1番目としましては、「台風や河川の氾濫で避難を考えるようになった」、「高齢者だけの世帯が増え地域の維持管理が難しくなっている」、「神事や祭りごとの後継者が不足しているので近隣の地域との協力が必要になっている」、「区の行事の減少でつながりが少なくなっている。顔が分からない」。2番目としまして、「隣の地区との交流が少ない」、「人口が少ないので役回りが何回も回ってくる、限界」、「高齢者だけで暮らす世帯があり、何かあった時に気づけない」、「地域の神事を継承する若手がない」、「防災時のマンパワー不足で、すぐに動けない」、3番目としまして、「総会などで女性が発言できたらいいな」、「広い範囲で動く自主防災組織があるといいな」、「高齢者が安心して住むことができるよう、顔の見える関係のある地域になったらいいな」、「子どもが安心して暮らせるまちづくりができたらいいな」、「須古城のてっぺんで須古を感じながら今日のような話し合いをしたいな」、こういった意見が出されております。真ん中から左下の方なんですけれども、「こんな風にみんなと話す場が欲しかった」と、こういった意見が多く出されております。また下の右の方なんですけれども、「人がいないことは共通の悩みだった」ということで、多くの方が同じことで悩んでいるということが分かったところです。次の1枚めくっていただきまして、裏面の方には11月15日に行いました2回目のワークショップの案内を記載してお配りをしたところです。

続きまして資料4、11月15日に実施をしました第2回目の須古地区の暮らしと未来をつくる会議ワークショップでございます。資料4が実際に参加頂いた方にお配りした資料となります。当日につきましては、須古の住民の方が83名、中学生が6名、白石高校生が7名、佐賀大学生が11名参加を頂いております。この資料の6ページをご覧ください。ワークショップに入る前に、まず須古の人口の現状について説明を致しております。6ページにつきましては、平成7年と令和2年の50代から60代の人口の比較となっております。25年間で81名が減少したといったグラフでございます。これに対しまして、次の7ページをご覧ください。7ページにつきましては、30代から40代の人口の比較、同じ平成7年から令和2年の比較でございます。30代から40代につきましては、25年間で約400人が減少しているということになっております。

50代から60代と比べて30代から40代は大きく減少しているという現状をお知らせしております。続きまして9ページでございます。前回、9月に行いましたワークショップの方で出された意見をもとに、地域づくり協議会が取り組む柱としまして、子どもという柱、防災という柱、須古の魅力を発見・発掘するという柱、この3本柱をもとに話し合ってもらっております。話し合いをしていただきまして、次に16ページでございます。各グループに20年後の須古がどうなっているかを書いていただきまして、そのために1年目、2年目に何をするか、3年目に何をするか、5年目から10年目に何をするかをそれぞれ書いていただいております。同じように17ページにつきましては、20年後の防災についてどうなっているか。18ページについては、20年後の須古の魅力の様子についてどうなっているか、それに向けて途中何をしていくのかを書いていただいております。この結果を現在取りまとめているところです。3回目のワークショップにつきましては、最後の20ページになりますけれども、令和3年2月13日土曜日に白石町総合センターで開催を予定しております。ここで1回目と2回目のワークショップの様子を5分程度にまとめておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

【映像を放映】

○委員長

はい、どうもありがとうございました。いま須古地区での住民ワークショップの2回に渡る様子を映したものを拝見いたしました。いまここに示されているこういう住民向けに配布する資料、あるいはワークショップの資料等を見ていただいて、何かご質問、ご意見等いただければありがたいと思っております。委員長から補足いたしますと、いま準備委員会に立ち合わせていただいた際に、委員長として色々お仕事をさせて頂いておりますけれども、何か若い力で何か応援できることはないかなと前から考えておまして、たまたま私の授業を受けている佐賀大学の3年生の学生達に相談をしまして、いろんな形で応援をしたいという要望がありましたので、ワークショップに学生も参加させていただきました。白石高校生と同じテーブルで色々意見出しをリードしてくれたと思っております。この便利にもありますけれども、こんな形で須古地区のいろんな人たちと対話ができることの大事さ、そんなことを改めて私は思い至りました。多くの方々が未来について、真面目に、楽しく、これだけの規模で話し合いを持つという機会は、おそらく今までなかったことだろうと思うんです。こういう機会が生まれたことがおそらく地域を作っていく、地域を変えていく原点だろうと私は思います。多くの住民に参加していただく、これが言わば協議会を作るまでに大変重要な手続きで、準備委員会の方々がいろいろご努力をされて、多くの方々を引き込んでくれた、そういう経緯かなと思っております。どうでしょうか。須古地区から来られている委員の方々、補足等ございましたら、感想でも構いませんのでよろしく願いいたします。

○委員

皆さん、こんばんは。すべて、先生やファシリテーターの方が、とても進行が上手く

て、前回は言ったんですけれども、とてもそういう面では、まとめあげと出た意見をやりっぱなしではなくて、どんどんまとめあげて行かれた、そういう経緯があるので、ずっとこういう段階的にできたんだと思います。第1回のワークショップについては、それまでの準備委員会でずっとあった出来事を、ワークショップで積み上げて、いまの須古が分かったよとか、こうだったらいいねという話し合いが行われました。第2回目のワークショップについては、それをもとに、また途中に準備委員会があって、3つの柱はどうしようかということで、20年後の須古を考えていくための須古の魅力を発見したり、防災とか、子どものこととか、テーマを決めてされました。そういったものはとても良かったのですが、さきほど先生が言われたように、若い力、若い声が無いことが一番問題点だったのかなと私も思っております。そこで大学生11人と高校生、高校生は高校との連携の中で7人紹介してくださいました。中学生については校長先生にお願いをして、主に須古の子どもさんを行かせて頂いたというように、色々な方々のお力添えがあったのワークショップだったのかなと思います。問題点の1つの若い力の声が聞けたということが良かったと思っております。第一にコロナの感染が一番酷い時にワークショップの2回目があったので、どうなるかな、実現できるかなと、ものすごく思いましたけれども、先ほど先生も言われたように、須古の皆さんのチームワークとやる気がそこまでさせて、行政の方の後押しがあったから、コロナ感染の中でできたのかなと思っております。それから20年後の須古ということで、最後に「私は20年後いませんが」と言われた方がありましたけれども、そういう言葉があるかと思うと、中学生、高校生は、自分たちのために、自分のために、20年後のことを話し合っ、ということが聞けたことが良かったという表現があったように、私たちは20年後いないかもしれないけれども、子どもたち、いまから30代、40代の子どもたちのために、こういう協議会は必要なんだなあということをつくづく感じました。

○委員長

ありがとうございます。まさに中学生が語っていましたが、自分たちのことを大人たちはしっかり考えていてくれるということを改めて認識をしたと。地域の誇りというのは、そこに歴史や文化とか、伝統、遺産があることが誇りの一つではありますけれども、私はそれ以上に、地域のことを、皆のことを思って、考えてくれる人がたくさんいる、そういった地域に住むことが、おそらく、そこに住みたいな、帰ってきたいなと思うような地域の誇りに繋がっていくんだろうと思います。そういう意味で、今回の須古地区でのワークショップ、今のところ順調に進んでいるなという印象を持った次第です。何かご質問ご意見等ございますでしょうか。どうぞ忌憚のないご意見をください。ビデオで見るといいことばかり流れてきますけれども、当然色々問題ございます。何でも構いません。素朴な疑問でも構いません。準備委員会、いま何人でしたっけ？36人ですかね。まず、準備委員会がしっかりとこのワークショップに向けて努力をされてきた。ファシリテーター、女性の方ですけれども、あの方がいろいろ取りまとめ、みんな

なの意見の引き出しということで、非常に能力を発揮していただいております。委員さんが言われますようには、私は何もしておりません。ファシリテーターが非常にうまく進めて頂いております。モデル地区になりますと、このようにファシリテーターが様々な応援をすることになっておりますので、次、六角地区が始まっていきますけれども、須古地区の経験がうまく六角地区につながればいいかなと思っています。いかがでしょうか。何かご質問ご意見ございますでしょうか。

須古地区での動き、これがケーブルテレビや行政放送だとかそういった媒体を通じて、白石町全域に伝わるような、そういったことをこれから努力をしていく必要があるかと思えます。よろしゅうございますか。何かご質問ございませんか。第3回が2月の予定ですけれども、このコロナの第3波の状況次第で非常に厳しい状況になるかもしれません。柔軟に対応していきたいとは思いますが、次、六角地区がモデル校区になりますが、是非とも六角校区の関係者には、この須古のワークショップを傍聴するとか、なによりも、この委員会の委員さんに可能であれば、こういうワークショップなどを傍聴していただくと、雰囲気がよくわかるのではないかなという風に思えます。ご質問ご意見ございますか。よろしいですか。

それでは今回の第2回目のワークショップについては、いま取りまとめ中でございますので、それは次回の委員会で報告されるということですか。次回開催のこの委員会で第2回目のワークショップの内容についての取りまとめについてのご報告をさせていただきます。ポイントは須古地区をどうしていくのかという時に、テーマを3つに絞ったということです。非常にわかりやすいテーマです。子どもの見守り、それから防災減災、そして地域の魅力の発掘・発信。この3つにテーマを絞って進めていくということの方向性が見えてきたということだろうと思えます。

(3) 令和2年度「町民協働によるまちづくり」モデル事業について～六角地区～

○委員長

それでは特にご意見がないようですので、次の議事に入らせていただきます。(3) 町民協働によるまちづくりモデル事業について、六角地区がモデル地区になりますのでそのご説明お願いいたします。

○事務局

資料は資料5と資料6となります。はじめに資料5の方からご説明いたします。今年の6月から7月にかけて、各現在の小学校区ごとに駐在員さん、区長さん、公民館長さんを対象として、地域づくりの説明会を行っております。その後モデル地区の募集をさせていただきました。9月2日付けで六角校区区長会の会長さんより、この希望届が提出されました。次に裏面となりますけれども、他の地域・地区からの希望届の提出等はありませんでしたので、町といたしまして9月15日付けで六角地区を令和2年度のモデル地区ということに決定をして、六角地区の方へご連絡をいたしております。

続きまして資料6でございます。六角地区地域づくり協議会設立準備委員会の設立前準備案でございます。まず令和2年度につきましては、10月に発起人打ち合わせ会を行っております。そして11月あるいは12月にかけては、六角地区意見交換会説明会としまして、いろんな各団体の方から呼んでいただけましたら説明に伺うようにしております。また、六角地区の方で中心メンバーを選出していただきまして、事前の打ち合わせをということで考えております。そして年が明けまして1月からは六角地区地域づくり協議会設立準備委員会の事前打合せということで、ここからはファシリテーターに参加をいただきまして、また同じくここから、総合戦略課の方が事務局ということで予定をしております。令和3年度につきましては4月から六角地区地域づくり協議会設立準備委員会ということで、概ね月1回の開催を現在のところ考えているところです。詳細につきましては次のページとなりますけれども、ここはあともってご覧いただければと思います。事務局の方からは以上となります。

○委員長

はい、ありがとうございます。第2番目のモデル地区として、六角校区で行うことが決まりました。それに向けていま準備委員会の設置に向けた取り組みを行っているという段階であろうかと思えます。何かご質問ご意見ございますでしょうか。六角地区の委員さん、何かコメントがございましたらよろしく願いいたします。

○委員

この検討委員会については一昨年の第1回から8回までずっと参加をさせて頂いて、これはどうしても今の地域の現状を見た時に、これは地域としても参加をしておかないと、今後自分の地域はどうなるか分からないという気持ちで、今回もこの検討委員会に参加をさせていただきました。当初この地域づくりというものについて、われわれ六角地域で毎月2回は区長さん達が集まって会議を行っております。その中でこの地域づくりということを事務局から来て頂いて、この趣旨を説明していただいております。ところが、やはりどこの地域も一緒かもしれませんが、役員さん等の任期があるものですから、途中で、1年で代わられたりされてきたという経緯がありまして、また、今年、先ほど紹介がありましたように、このような説明会を区長あるいは公民館長対象にさせていただきましたけれども、それでもまだ半分くらいしか周知できていないということで、今回、区長会の中でも1回説明していただきましたけれども、たくさんの人にこの設立について関わっていただきたいということで、公民館長さんにもお願いをしようということで、とりあえず会長さんにはご了解を頂いて、公民館長さんにこの件についてもう1回説明をするという段階までいま来ております。須古地区と一緒に、非常に六角地区も高齢者ばかりになっておりまして、非常に問題です。私自身が白石に40年ぶりに帰ってきて、こんなに高齢者ばかりの地域になっているんだなあということを実感しまして、公民館長あるいは区長になって色々取り組んでおりますけれども、これが一地域の問題ではなくて、やはり校区として取り組まなければいけないということで今

回応募しましたし、先ほど紹介がありましたように、準備委員会に区長会でやっていこうということで手を挙げた次第でございます。いろいろ、先ほどもありましたけれども、コロナの影響でちょっと集まりができないという部分もありますけれども、その辺は臨機応変に対応していつて進めていきたいなというふうに思っております。

○委員長

ありがとうございます。須古地区もそうでしたけれども、最初の第一歩、準備委員会をどうやって作っていくのか、いま須古地区では36名ですが、当初は何名でしたかね。

○委員

だんだん増えていったんですけれども、最初は17人、27人、最終的には36人とメンバーがずっと加わっていきました。

○委員長

準備委員会の立ち上げが最初のハードルで、それぞれあて職で何か仕事をしないといけないのかみたいな気持ちにどうしてもなってしまう。ただし任期が切れても、今度は新しい小学校区単位での地域づくり協議会、それを動かしていく人材としても継続的に取り組んでいただきたいという思いがございます。役が回ってきたからしなくてはいけないということは確かにそのとおりでありますけれども、役を退いてからこそ役をやった経験を地域のために色々活用できる、そういった地域づくりが求められているだろうと個人的に思います。大変かと思っておりますけれども、六角地区の皆さん頑張ってください。何かこの件に関してご質問ご意見ございますか。よろしゅうございますか。準備委員会が立ち上がってから本格的にさまざまな協議が始まって行くかと思っておりますので、今後に期待をしたいと思っております。よろしゅうございますか。今日はあまり委員の皆さん、ご意見がないので、もう少し何か言いたいことがありましたらどうぞ遠慮なく言ってください。

(4)「町民協働によるまちづくり」に向けて提言【案】の検討

○委員長

それでは続いて最後の協議事項になります。町民協働によるまちづくりに向けての提言書の構成案が事務局より提示されておりますのでご説明をお願いいたします。

○事務局

はい、資料の方は資料7となります。白石町町民協働によるまちづくりに関する提言書(体系案)となっております。まだぼんやりした形でございますけれども、令和3年度に取りまとめていきたいというふうに現在考えているところです。本日のところはこういう感じで提言書を考えていますといった紹介のような形となります。次の目次を見て頂きますと、1番目にはじめに、2番目になぜ町民協働によるまちづくりが必要なのか、3番目に今後の町民協働によるまちづくりについて、4番目に地域づくり協議会についてということで、こういう形で作りたいということで、それから先はまだ決まって

いない状況ですけれども、そういったことで現在考えているところです。資料7の後ろに参考資料としまして、柳川市校区まちづくりに関する提言書となっております。これにつきましては紹介のみということでさせていただきます。簡単ではございますが、事務局からは以上となります。

○委員長

はい、ありがとうございます。私、勘違いしておりました。この提言書は最終的には来年度、令和3年度、本年度ではなく来年度に取りまとめるということになりますので、今年度はあと1回、この委員会を予定しておりますけれども、次回ここにあげてあるこの体系案、見出し、章立てとか、どんな構成にするか、そういった点で次回ご意見をいただくことになろうかと思えます。とはいえ、既にこの委員会で協働によるまちづくりのリーフレットを作成しております、前半部分についてはこのリーフレットの内容を流し込めばよろしいかと思えます。あとは須古地区での準備状況等を見ながら、どんな風に進めていくのか、そして誰がやっていくのか、受け皿となる協議会の組織の在り方がたぶん一番重要になろうかと思えます。リーフレットにも一部書いたかと思えますけれども、協議会のイメージ、どんな協議会の組織を作っていくのかというところが1つ大きなポイントになろうかと思えます。考え方としては、何度もこの委員会で確認をしているんですけれども、いまある様々な活動団体、それをガラガラポンするわけではありません。いまある活動団体は基本的にそのまま存続することが前提です。その上で活動の目的ごとに様々な団体が連携しましょう、そういう考え方がこの地域づくり協議会の基本的な考え方になります。例えば、須古であれば、さっきいった3つの目標、子どもの見守り、防災減災、そして地域の歴史魅力の発見、この3つのテーマで既存の団体が様々な連携をとっていく、そういったイメージが一番分かりやすいのかなと思えます。参考資料として、最後につけております柳川市の事例ですけれども、私がちょっと関わった案件で、柳川はやはり、市町村合併で大きくなったところですが、旧柳川と周辺の農村的なところが1つになった市で、福岡県の中ではこういう地域づくりの協議会の設置がだいぶ遅れたところです。平成30年に提言書を取りまとめましたけれども、1校区がモデル地区として活動している状況で、その後、第2、第3のモデル地区がまだまだ出てきていない状況にあります。あくまでも他市の事例ということで資料としてつけさせていただきます。この最終的に、来年度取りまとめる提言書のいわば章立て、どういったことを盛り込むかについて、これから色々皆さんからご意見を頂いていくことになると思えます。まずはその組織のあり方、そしてもう一つ財源の問題もあります。従来のような町から配分される、そういうお金の使い方では当然新しい活動は限界があるかと思えます。様々な財源のいわば使い方、そういったことも含めて協議会の方で検討していく、そういったことが必要になってくるかと思えます。そして活動の拠点ですね。多くの地域で小学校であったり公民館であったり様々な活動拠点があると思えますが、1つの協議会としてのしっかりとした活動拠点づくり、場所の確保も必要

になってくるだろうと思います。そういったことがここに盛り込まれる内容のイメージかなという風に考えているところです。今後の進め方も含めまして何かご質問ご意見等ございますか。何でも結構です。ご要望でも結構です。

○委員

先生にちょっと質問なんです、いまの地域づくりということで進めていく上で、いまやろうとしていくと、もちろん地域的にまとまろうと、色んな問題点を出して、もっと解決していくべきところを検討し始めようかというところなんです、学校の統廃合というところで、今度学校区が変わってくると、その辺での弊害がどんな風が変わっていくのか、先生はどんなふうな見解でいらっしゃるのかをお尋ねしたいのですが。

○委員長

いま全国的に小学校・中学校も含めて、統廃合の動きがかなり加速化していることはご承知のとおりだと思います。白石町でもそれがいま検討されていて、方向性が議論されているということを伺っております。ただ、いま、私たちがやれることは、いまの小学校区を前提にして、やはりまずはしっかりと地域で固まる、その上で将来的に統廃合が起こり、小学校区が広がった場合に、また他のいまある小学校区まで含めた新たな連携組織が必要になろうかと思えます。最初から統廃合を前提にした大きな小学校区での地域づくりというのは、僕は広すぎると思っております。つまり、1つ中学校区に相当するような地域になりますので、そこで協働の地域づくりをしていくのは、やはり広すぎると思っています。テーマによっては、例えば福祉でいう地域包括ケアというのは、中学校区くらいの範囲を前提にしているものも多くございます。しかし、身近な暮らしに直結するような連携、協働の組織としての広がりとしては、現行の小学校区辺りで、まずはしっかりと決めて進めていく、その基盤ができあがった上で、統廃合に対応して広い小学校区でどういう連携が可能となるのか、それが次のステップかなと思っております。とはいえ、いま須古で始まり、六角で始まり、その次3つ目、4つ目あたり的小学校区がこの活動に手をあげる時期には、やはりその統廃合の問題なんかを避けて通れない状況が出てきようかと思えますが、それでもやはり、出発点は、基盤は、いまの小学校区、そこで今まで培ってきた様々な活動のネットワークと言いますか、人の輪が出来上がっているはずですから、まずはそこを前提にしっかりと決めて進めていくべきだろうと私は思っております。来年度取りまとめる提言書の中に、パンフレットでは概ね小学校区を前提にこういう組織を作っていくという書き方をしておりますけれども、来年度取りまとめる提言書の中には、その概ね小学校区という、その意味、解釈、それをちょっと改めて再定義をする必要があるかもしれません。ただ現段階では、何度も申し上げますけれども、活動しやすい広がりというのはあって、あまりに広いとやはり住民の関心も薄くなってしまふ。現在の小学校区を前提に考えていくのが現段階での私の考え方です。これについてはいろいろご意見があろうかと思しますので、来年度の委員会の1つの検討課題とさせていただきます。他に何かご質問ご意見等ございま

すか。

それでは本日予定しました協議事項は以上でございます。その他、皆様から何かございますでしょうか。よろしゅうございますか。それでは事務局の方にお返しします。よろしく申し上げます。

4. その他

○事務局

委員長さんありがとうございました。それでは、その他でございますが、まず次回、第12回の検討委員会でございますが、次第に書いてありますとおり、来年の2月頃開催の予定で、場所は未定としております。全国的にコロナも拡大しているようですので、そこら辺りは慎重に対応させていただきます。何かとお忙しいと思いますが、今年度最後の委員会となりますので、皆様方の出席を是非宜しくお願いいたします。事務局からは以上ですが、他に皆様から何かございましたら申し上げます。よろしいでしょうか。

5. 閉会